



取組をはじめたきっかけは何ですか？

核家族化や高齢世帯の増加等の社会背景があり、地域の支え合いの必要性を感じていました。そのため、近所の方々が集う場を作り、地域住民同士の繋がりや助け合いの関係性づくりを目指し平成26年に共生型の通いの場として、活動を始めました。

平成29年7月と令和3年4月に開催場所を変えながら、徐々に規模を拡大し、令和4年5月に現在の常設型通いの場となりました。

私たちは場所の提供だけでなく、内容が伴えば介護予防や生きがいづくりにもつながると考え、運営人と地域の方々の協働で「にじいろ」という地域の居場所を作り上げてきました。

どんな取組を行っていますか？

施設の交流スペースを常設型通いの場として開放。平日の10:00～16:00にオープンスペースを開設しています。その他、要望があれば夜間や土曜・日曜日にも会場の提供を行っています。

その中で、毎日1～4回、健康体操やヨガ、手芸や裁縫等の教室を開催しています。

季節ごとに、子育て世帯が参加しやすいようマルシェや夏祭りといったイベントの開催、映画上映会、相談コーナーの設置のほか、地元中学校の体操ジャージのリユース活動やフードバンクなど、小さな子どもから高齢者まで幅広い

層が活動できる居場所づくりを行っています。

取組を行う際のポイント

取組の対象となるのはさくら市全域です。また、子どもから高齢者までを対象にしているため、月間の予定表を作成して、SNSや施設、市役所窓口で情報発信を行っています。

行政区長・民生委員を中心にネットワークを構築し、回覧板等で広報してもらいながら、地域に生活課題を抱えた人がいれば相談を受けています。

また、他地区の常設型通いの場や隣接サロンと情報交換や運営互助を行っています。

地域との繋がりや関係性を深めるために、情報発信を行うことや、ニーズ把握のための情報収集、地域全体で居心地の良い場所を作るための意見交換をしながら企画・運営しています。

これからの活動について

取組開始当初は、1日当たり10～15名程度の参加者だったのが、今では30名を超える日もあります。

徐々に教室の種類や開催頻度を増やすことができている、利用者側も選択の幅が広がっているのではないかと思います。

今後は、地域貢献を考えている地元企業とタイアップし夏祭りの開催や、トレーニングマシンを導入して、教室

を開催しているとき以外にも自由に体を動かせる環境を整えていこうと思います。

また、男性の利用者が少ないため、男性が参加しやすいよう麻雀や将棋等ができる環境づくりや、男性の料理教室などを企画する予定です。

高齢者だけでなく、障害や認知症があっても活躍できる場を作るため、様々な活動を企画していきたいと思えます。

今後も、いつでも通うことができ、専門職とつながりが持てる「相談の場所」「頼れる場所」「寄り添ってもらえる場所」として地域に根差していくことを目指していきます。

活動チラシ



常設型居場所にじいろの開設

- ◆場所 栃木県さくら市氏家3260-1
(特別養護老人ホームつきみの杜内)
- ◆対象 さくら市在住の子どもから高齢者まで
- ◆活動内容 毎週月曜～金曜日
10時～16時にオープンスペースを開設
その他、必要に応じて夜間や土日にも会場を提供
 - ・各種教室の開催(健康教室、ヨガ、エアロビクス、手芸、裁縫等)
 - ・各種イベントの開催(マルシェ、夏祭り、映画上映会等)
 - ・中学校ジャージのリユース活動
 - ・フードバンク活動
 - ・相談コーナーの設置 など
- ◆費用 通いの場としての利用は無料
教室によって 参加費無料～500円程度

皆様の個性や取り組みが「虹」のように輝き、地域に活力をもたらします。
お互いに尊重し、成長し合う場所を目指し、取り組みを進めてまいります。



「にじいろ」は、その名の通り、多彩な色彩や多様性を表現するもので、参加される皆さまの個性や様々な取り組みが、まるで虹のように美しく輝き、地域に活気と活力をもたらしています。この素晴らしい地域のコミュニティを支える皆さまに心から感謝いたします。これからも地域の皆さまがお互いを尊重し、支え合い、共に成長し合う場所であり続けることを目指し、取り組みを進めてまいります。

社会福祉法人 愛美会 理事長 家守 美由紀

団体概要

団体名 | 社会福祉法人 愛美会
所在地 | さくら市氏家3260-32
代表 | 理事長 家守 美由紀

事業内容 | 老人福祉施設の運営 など

評価のポイント

ボランティアの方が企画する各種教室やイベントに対する会場を提供するほか、相談コーナーの設置、中学校ジャージのリユース、フードバンクといった様々な支援活動を展開しており、子どもから高齢者まで幅広く参加しやすい居場所づくりに取り組んでいる点、支援機関等との連携により相談支援体制を構築している点が、高く評価されました。